

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
13	鳥居 育世（1）	<p>1. 死産・流産を経験した母親へのグリーフケアとサポートについて</p> <p>子供を授かるということはとても喜ばしいことで、どの妊婦も胎児が順調に育ち、元気に産まれてくることを心から願っていると思います。また、家族や周囲の人たちも元気に産まれてくることを心待ちにしていると思います。</p> <p>しかしながら、全ての妊婦が順調な道をたどるわけではありません。望まない妊娠もあります。また、望まれた妊娠の中でも胎児の染色体異常や、何らかの病気により妊娠の継続が難しい場合や、不育症や子宮筋腫、がんなどの発見により、やむなく妊娠の継続を断念する場合があります。そのときには人工妊娠中絶の選択を迫られ苦悩します。また、そのまま流産や死産につながってしまうこともあります。</p> <p>その現実直面した妊婦は自分を責め、自分の選択を後悔し、何年も前向きに現実を受け止め切れず、誰にも話せない、または周囲の心無い言葉や態度に深く傷つき、立ち直れない方が多くいます。統計では立ち直るのに平均3年から4年かかるとの調査結果も出ています。</p> <p>また、そのことにより弊害も生まれています。一番悲しみを共有してほしいパートナーや両親など、近い関係の方との受け止め方のギャップが、その後の家族関係を悪化させるケースや、先に生まれた子への愛着が薄れる、気力の喪失からネグレクトになるなどのケースもあります。</p> <p>また、適切なケアにたどり着けないことも大きな問題です。ケアやサポートがされないがために、次の妊娠への希望が持てなかったり、鬱状態に陥るケースもあります。</p> <p>現代では10人に1人が産後鬱になると言われています。このコロナ禍で妊婦同士の仲間の形成ができないことや、産後のつながりが難しくなる中、4人に1人が産後鬱になっているとの調査結果も出ています。サポートや相談機関のない死産、流産後の母親は大変な状況にあります。</p> <p>富士市は「子どもが健やかに育ち 安心して子どもを生み育てることができるまち ふじ」を目指しています。死産や流産という深い悲しみの現実と一生懸命向き合おうと頑張っている妊婦にもサポートが必要です。</p> <p>以下について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 母子手帳交付時の対応について (2) 富士市子育てガイド「はぐくむF U J I」への掲載について (3) 子育て相談窓口や、子育て支援センターなどの窓口対応やお知らせについて (4) 死産・流産をした母親への保健師の産後母子訪問の拡充について (5) 天使届の交付について (6) 富士市立中央病院のグリーフケアの現状と実施について 	市長 及び 担当部長